記事
Akio Hashimoto · 2023年3月16日 3m read

IRISサーバーのバックアップと再構築の手順

Dockerコンテナで IRISサーバーを構築していた時に、Dockerのバージョンアップによって、IRISサーバーが消滅してしまう事がありました。
その経験から、IRISサーバーを復元する為の方法と、事前のバックアップについて共有したいと思います。

IRISのバックアップ手順

全ての構築が完了したら、事前にバックアップを取っておきます。
クラスやルーチン、グローバルのバックアップは別途、バックアップを取っておく事をお勧めします。

1. ユーザー定義をエクスポートする。
   IRISサーバーで定義したユーザーの設定内容を全てエクスポートします。

```
zn "%SYS"
write ##class(Security.Users).Export({???????})
```

2. アプリケーション定義をエクスポートする。
   IRISサーバーに定義したアプリケーションの設定内容を全てエクスポートします。

```
zn "%SYS"
write ##class(Security.Applications).Export({???????})
```

3. IRISサーバーを停止する。
   起動しているIRISサーバーのインスタンス名を指定してIRISサーバーを停止します。

```
iris stop {IRIS???????}
```

4.
   iris.cpf ファイルをバックアップする。
   cpfファイルはインストールディレクトリに在ります。

5.
   各データベースをバックアップする。
   各データベースのiris.datをバックアップしておく。
   この時、ディレクトリで退避すると良いでしょう。

6.
   IRISサーバーを起動する。
   IRISサーバーのインスタンス名を指定して起動します。

```
iris start {IRIS???????}
```

IRISサーバーの再構築

IRISサーバーをインストールし直した場合などに、バックアップしておいた情報でIRISサーバーを再構築する。

1. データベースを元の構成で配置する。
   iris.dat等を元のディレクトリ構成で配置しておく。

2. IRISをインストール。

3. IRISサーバーを停止する。
   IRISサーバーのインスタンス名を指定して停止します。

```
iris stop {IRIS???????}
```

4. バックアップしておいたiris.cpfファイルを上書きする。

5. 必要に応じて、iris.cpfファイルのパーミッションを変更する。
   上手く行かない時はパーミッションを確認して下さい。

6. IRISサーバーを起動する。
   IRISサーバーのインスタンス名を指定して起動します。

```
iris start {IRIS???????}
```

7. ユーザー定義をインポートする。
   バックアップしておいたユーザーの定義ファイルをインポートします。

```
zn "%SYS"
write ##class(Security.Users).Import({???????????????})
```

8. アプリケーション定義をインポートする。
   バックアップしておいたアプリケーションの定義ファイルをインポートします。

```
zn "%SYS"
write ##class(Security.Applications).Import({????????????????})
```

9. 必要な場合、クラス、ルーチンを再コンパイルする。
   再コンパイルが必要な場合があります。

以上が、構築したIRISサーバーのバックアップと再構築の手順になります。

#チュートリアル #InterSystems IRIS

ソースURL:
https://jp.community.intersystems.com/post/iris%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%BC%E3%81%AE%E3%83%90%E3%83%83%E3%82%AF%E3%82%A2%E3%83%83%E3%83%97%E3%81%A8%E5%86%8D%E6%A7%8B%E7%AF%89%E3%81%AE%E6%89%8B%E9%A0%86